

事例名：アクティブ・ラボによるソリューション提案型共同研究の推進

機関及び連携機関

公立大学法人岡山県立大学 地域共同研究機構
産学官連携推進センター

功労者

公立大学法人岡山県立大学 地域共同研究機構
産学官連携推進センター
共同研究推進員 佐野公一郎

事例の概要

◎「アクティブ・ラボ」は共同研究の活性化を図るために本学教員が企業に出向く「出前研究室」であり、現場に赴いて企業ニーズを発掘しながらソリューション提案型の共同研究に結びつける事業である。H19年度からの独立行政法人化を念頭に置いてH17年度から実施している。

◎岡山県内の産学官連携組織で企業を訪問する「100社訪問キャラバン隊」をきっかけとして、企業の状況や経営者の夢を把握し、ソリューション解決の手段として「アクティブ・ラボ」を実施してきた。なかには、本学教員でチームを編成して企業を訪問することもある。徹底したシーズ・ニーズのマッチングのため合宿を伴うことや、1案件につき複数回実施することもある。

◎さらに、これより培われた教員間のチームワークを活かし、学部・学域を越え連携して共同研究の獲得を目指す組織「領域・研究プロジェクト」へとその活動は拡大している。このような教員間連携による、徹底した現場密着型のソリューション提案型共同研究は、本学の特色を成しており、研究により地域に貢献するという本学の社会貢献の在り方を実践するものである。

◎功労者は、本学に於ける地域貢献組織の立ち上げ時よりその任に就き、上記の本学独自の共同研究の形成をリードしてきた。

◎大手企業において、工業デザイン・商品企画に長年の経験があり、商品の価値付けや商品開発プロセスに対する優れた見識を有する。また、人柄から、企業人と虚心坦懐に議論して本音を引き出すことができる。さらに、学内の若手研究者の長所や意欲を巧みに引き出すマネジメント能力に秀でている。これらの魅力と実行力が「本音の産学官連携活動」の根源であり、本学の社会貢献の仕組みづくりとその推進に大きく貢献している。

(特筆すべき事項)

<100社訪問キャラバン隊> H16年度に始まり、地域ものづくり企業を県下各大学等の研究者が訪問する事業である。功労者は第1回から現在の第85回まで、各大学の研究者の参加とりまとめに尽力してきた。

<アクティブラボ(出前研究室)> 本学教員が企業等へ出向いてシーズ紹介や情報交換を行うもので、初年度のH17年度26件、H18年度20件、H19年度32件で、質・量共に伸展させている。

<領域・研究プロジェクト> 学部・学域を越えた融合研究を推進し、実学の創造を通じた社会貢献を実現するためにH18年度から実施。初年度は4領域5件、H19年度は5領域7件、H20年度は7領域10件が見込まれる。

具体的成果等

◎連携の概要とその特長

岡山県立大学は保健福祉、情報工学、デザインの3学部で実学の創造を基本理念としてH5年に建学され、H19年に独立行政法人化した。地域共同研究機構はH12年に設立され、H14年に専任職員が配置され、共同研究推進員として功労者が着任した。

爾来、設立して日が浅く知名度の低い県立大学を県内各方面に周知することとファンづくりを目指して東奔西走し、産学官連携による共同研究を推進してきた。H14年には県下各地域に出かけてのブロック説明会の実施、H16年からは100社訪問キャラバン隊やアクティブラボなど個別企業への教員の派遣など、一貫して現地・現場主義を重視してきた。最近では、ファンができて、ほぼ毎日のように企業の方から功労者を訪ねてくるようになっている。

◎功労者の主な役割

H14年4月着任以来、産学官連携共同研究の推進のために個別企業のニーズを掘り起こして、学内研究者とのマッチングを行うのみならず、制度・仕組みの改善提案などを積極的にいき、今日の産学官連携推進センター推進活動の基礎を造り、中核として活躍している。

◎連携体制によってもたらされたあるいは期待される具体的な効果

<共同研究、受託研究の件数の推移>

最近の4年間の推移を右表に示す。アクティブ・ラボを始めたH17年度頃から件数が着実に伸び、実用化に至る例も多くなっている。

年度	H16	H17	H18	H19
共同研究	12	20	29	23
受託研究	5	8	6	20
計	17	28	35	43

<共同研究による実用化具体例>

- ①家庭用岩盤浴ベッド(H19年度 (株)サンタモニカ)
- ②玄德茶カートン飲料(H20年度に商品化見込み A社)
- ③冷間ロール成形機・造管機(H17年度 (株)英田エンジニアリング)

<OPUフォーラム(大学一般公開)の開催とファンづくり>

研究成果とともに地域企業との連携成果も展示している。H19年度の独立行政法人化を契機に毎年開学記念日の5月29日に開催することとし、来場者888名を得た。H20年度は779であった。